



## うらないと人生

令和7年になりました。皆様、今年もよろしくお願ひいたします。

さて、十二支でいうと巳年ですね。巳という文字は、胎児の形から「生まれてくる」「将来・未来がある」という意味があり、へびは脱皮することから新しい自分に出会える年とも言われています。

もう少し詳しくお伝えすると、乙巳(きのとみ)の年になります。乙は、いまだ発展途上の状態で、巳は植物が最大限まで成長した状態を表します。この組み合わせは『成長と結実』のときとなる縁起の良い捉えられ方もできるそうです。

また、脱皮するという面から、死と生、復活と再生の象徴として用いられ、ギリシャ神話では医神アスクレピオスの杖(へびが巻き付いた杖)が有名です。この杖はWHO(世界保健機構)の旗章に用いられ、世界的に医療・医術の象徴となっています。ちなみに、巳年の巳は実とも読み替えられお金が身(実)に付くという、いわれもあるようです。

ここまで長い前置きとなってしまいましたが、その年の今後を占う一つの切り口でもあるように感じます。皆さんは占いを信じますか? 占ってみようとした経験はあると思います。占い師に直接みてもらったり、おみくじを引いたり、雑誌等の星座占い、手相、四柱推命、タロット占い……、私がかつて知っているだけでもたくさんあります。

当たるも八卦当たらぬも八卦と言いますが、よく書いてある部分を信じて、そうではないところは信じないという考えの人もあります。何かの結果を知りたい、これからすべきことの決断の参考にしたいなど、背中を押してほしい状況にあるときに占いを活用する方もいるでしょう。

人生の岐路にたつ度に立ち止まりよく考え、行動または判断を繰り返し、私たちはそのときの最善を目指しているように感じます。

正解はずっと後にわかる、もしかしたら正解のないものと向き合うときもあるかもしれません。そのときどきで、頼りにするのが何なのかは人によって、乗り越える課題によって、年齢によって、おかれた環境によって違ってきます。

今、3年生たちは受験をとおして一つの岐路にたっています。一人ひとりが、自分に手応えを感じられる経験をしてくれたらと願ってやみません。そして、自分が成長と結実に向かっていると前向きにとらえて進んでください。

私たち教職員は、生徒たちの未来を想像する 때가 あります。占い道具もなく、その生徒を思うだけで想像します。生徒がなりたい自分になるための学びを高松中で得られるように、今年も支えていく1年にしていきたいと思います。

最後に余談ですが、生徒に「先生、なぜ知っているの?」と言われたときに、私は「先生はね、こすらなくても見える水晶玉をもっているのよ」とふふんと笑って返事をしていた頃を思い出します。精度の高い水晶玉を常に持ちながら、時には水晶玉を置いて楽しめる校長でありたいとも思うのです。新しい自分に出会える大人を目指して私たち教職員も乙巳年を過ごしていきたいと思っています。

